

佐賀県研究成果情報（作成 2026 年 3 月）

[情報名] 「佐賀果試 9 号」を根域制限栽培することによる収穫時期の早期化と高品質化

[要約] 「佐賀果試 9 号」を根域制限栽培することでシートマルチ栽培に比べ収穫時期は 10 月上旬と 1 週間程度早く、果実品質は高い。また、果実階級は S, M 階級中心となる。

[キーワード] 「佐賀果試 9 号」、根域制限栽培、果実品質、収穫時期、早期化

[担当] 佐賀県果樹試験場・常緑果樹研究担当

[連絡先] 0952-73-2275・kajushiken@pref.saga.lg.jp

[分類] 技術者参考

[部会名] 果樹

[専門] 栽培

[背景・ねらい]

さが園芸 888 運動で推進している根域制限栽培の導入を拡大するため、極早生から普通温州など根域制限栽培された高品質ミカンのリレー出荷を可能とする技術開発に取り組んでいる。上野早生の珠心胚実生である「佐賀果試 9 号」は、上野早生よりも高収量で着色や減酸が早く、糖度も高い特徴がある品種である。そこで、本県で 10 月上旬に収穫され露地ミカンをリードする位置づけになる可能性がある当品種を根域制限栽培し、シートマルチ栽培と比較しながら技術に対する効果の特徴を明らかにする。

[成果の内容]

1. 根域制限栽培の収穫時期は、シートマルチ栽培より平均で 1 週間程度早い（表 1）。また、年次に関係なく、10 月第 1 週にはブランド果実基準（糖度 11.0 以上、酸含量 1.00% 以下）に達する（図 1、2）。
2. 根域制限栽培の果実糖度は、5 年間の平均で 11.3 とシートマルチ栽培より安定して高い（図 1）。
3. 根域制限栽培の酸含量は、5 年間の平均で 0.89% とシートマルチ栽培より安定してブランド果実基準（1.00% 以下）になる（図 2）。
4. 果実階級は根域制限栽培が S, M 階級中心で、シートマルチ栽培が M, L 階級中心となる（図 3）。

[成果の活用面・留意点]

1. 本情報は、根域制限栽培における導入品種を検討する際の参考情報となる。
2. 根域制限栽培樹（樹齢 9 年生（2025 年時点））の収量は、2021 年から 2025 年の 5 か年平均で 3.4 t/10 a（植栽本数 160 本/10 a 換算）、シートマルチ栽培樹（樹齢 20 年生（2025 年時点））は、4.7 t/10 a（植栽本数 80 本/10 a 換算）である。
3. 根域制限栽培樹は、7 月中旬頃から水切り管理を行い、8 月上旬頃に日肥大量 0.3 mm/日以下、糖度が 8.5 以上を確認後、節水管理を行った。シートマルチ栽培樹は、マルチ資材の被覆を梅雨入り前の 6 月上旬に行った。
4. 根域制限栽培された「佐賀果試 9 号」の収益性についても調査を行い、普及成果情報として発出する予定である。

[具体的なデータ]

表1 「佐賀果試9号」根域制限栽培とシートマルチ栽培の収穫日の違い

年 栽培法	2021	2022	2023	2024	2025
根域制限	9/28 (-17日)	10/3 (-11日)	10/3 (-3日)	10/3 (-8日)	10/6 (-2日)
マルチ	10/15	10/14	10/6	10/11	10/8

*収穫日は果実内容（主に酸含量）と着色（5歩着色以上）で判断

*（ ）の値は、シートマルチ栽培の収穫日との差

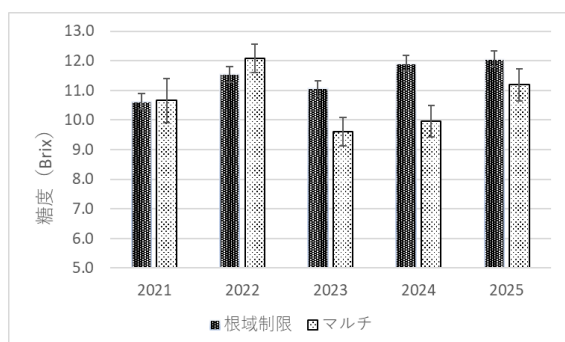


図1 根域制限栽培とシートマルチ栽培における収穫時の糖度 (Brix) の違い

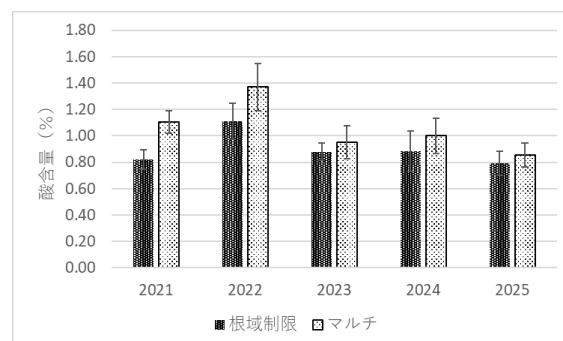


図2 根域制限栽培とシートマルチ栽培における収穫時の酸含量 (%) の違い

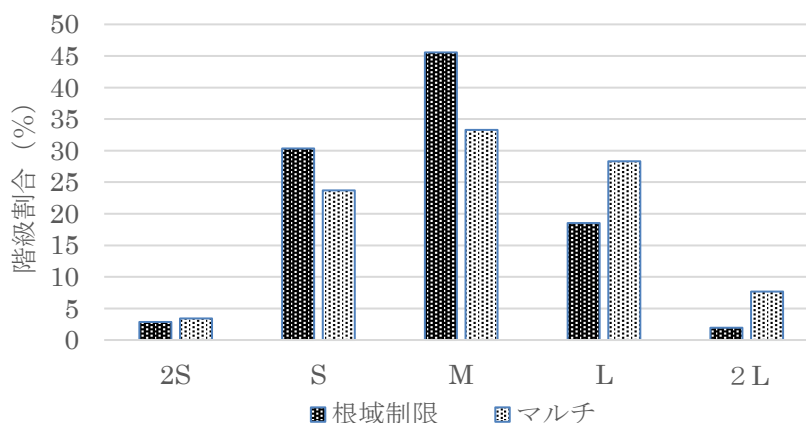


図3 根域制限栽培とシートマルチ栽培の果実階級の違い

*根域制限栽培は2021~2025、マルチ栽培は2023と2025から算出

[その他]

研究課題名：根域制限栽培における極早生温州の特性の解明

予算区分：果樹試験場維持運営費

研究期間：2021年～

研究担当者：新堂高広、田島丈寛